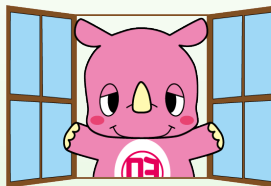


対話を紡ぎ、共に創る コミュニティ・スクール



令和8年度
コミュニティ・
スクール通信5号
印西市生涯学習課

7月は、学校にとって1学期のまとめの時期です。コミュニティ・スクールにおいても、本年度第2回の学校運営協議会が開かれる時期となりました。協議会では、児童生徒のよりよい成長のために、学校と地域がどのように連携・協働していくかについて具体的な検討が進められています。

原山中学校区 第2回学校運営協議会 開催レポート



原山中学校区の学校運営協議会が7月9日に開かれました。この第2回が地域と学校がどのように連携・協力していくか、具体的に考えていく協議会となります。

今回は、2つの議事について熟議（意見交換）が行われました。一つ目は『卒業までに育てたい力』として、地域と学校で学区内の児童・生徒をどのように育てていくべきかの共通理解が図られました。原山中は「肩の力をぬく力を育てる。自分を好きになる。自分らしく自分で生きていけるように」、内野小は「失敗を乗り越える力を育てる。

時間を守る。挨拶のできる子にする」、そして原山小は「メタ認知力、自己肯定感を育てる。社会とつながるようにさせる」をそれぞれ挙げ、二つ目の熟議『その力を育む学び・体験』では「自分自身を自分で受け止め、好きになることが土台。自分に自信をつけさせる」、「探究活動でコミュ力をつけさせる場面を多く設定していく」、「生きる力の育成に必要な失敗を経験させ、乗り越えさせる場面を用意する」などの意見が出されました。

協議会全体を通して、「こどもを育てているのは、学校・家庭だけでなく、地域もそうである。要望があれば出してほしい」などの「地域は学校の応援団」という意識を持った意見が見られました。

「自己肯定感」、「失敗を乗り越える力」がキーワードとなった原山中学校区の学校運営協議会でした。



印西中学校区 第2回学校運営協議会 開催レポート

印西中学校区の第2回学校運営協議会が7月15日に行われました。コミュニティ・スクール2年目の印西中学校区は、今回の熟議は「地域と学校の具体的な協力の形をどうするか」を題として、地域と学校の連携について具体的に意見交換がなされました。

「地域ボランティアに何ををお願いしたいのか校内で話し合い、3つくらいに絞る」、「ボランティア募集について、回覧板やポスターなどで地域の人に周知してもらう」など、実際に地域ボランティア活動を推進させていく意見が出されました。

「『ボランティアに参加』と聞くと敷居が高いと感じる人もいる。強制される感覚を持たれることなく、例えば『今日のプチボランティア』など、『できる人が、できるときに、できることを』というスタンスでボランティアを募集する」など、参加しやすい、また、応募しやすいアイデアが出されたり、「回覧板だけでなく、スピーディーなデジタル情報ツールを利用する」、「ボランティア募集の告知をQRコードにして地域のお店などに掲示してもらったらどうか」などスマートフォンを使い慣れている、現代の人たちにうまくアプローチしていく意見が挙がったりしました。

2学期以降の地域と学校との連携・協力について、大きく前進した協議会となりました。

